



群馬マスタース通信

発行：群馬マスタース陸上競技連盟 [http://www.gu-masters.com/]

全日本大会の準備を始めます

会長 中沢 丈一

明けましておめでとう御座います。

皆様はご家族お揃いで、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年 9 月 16 日~17 日、新潟県で開催された第 37 回全日本マスタース陸上競技選手権大会に、15 名の視察団で行って参りました。

群馬陸協の方々 5 名にも同行頂きました。大会会場の案内、誘導、受付、運営、競技、アナウンス、表彰、開会式、交流会、審判、スタッフ等様々に調査してきました。帰路、新潟大会のように成功裏に向うために、胸の昂ぶりを覚えました。

リオのオリンピック・パラリンピックでは、日本選手団が感動と希望を与えてくれました。岩手県の国体は、震災復興、台風被害復興での開催。入場行進では、岩手県民の熱烈歓迎の拍手に感激しました。

スポーツはいいですね！近年、障害者スポーツが盛んになっています。群馬陸協さんも障害スポーツに力を入れ、障害者団体と連携する話を伺いました。素晴らしいことです。今後、群馬マスタースも協力し、障害者スポーツの振興にも役割を果たして参りたいと考えています。

群馬県のマラソンも年々盛んになっています。群馬県の知名度もスポーツを通して上がって来ています。群馬国体の開催準備も始まってまいります。第 40 回記念全日本マスタース陸上競技選手権群馬県大会の開催も 2 年後となります。今年は、着々と基本的な所から準備を進めてまいりますので、ご協力をお願いいたします。皆さま一緒に全国大会開催に向って頑張りましょう。

皆様のご多幸をお祈りいたします。

2016 年の群馬マスタース

10 大ニュース

理事長 岡田 節男

理事長一年目の平成 28 年度が終わりました。

そこで勝手ですが、私が気づいた 1 年間の 10 大ニュースを順不同で載せたいと思います。

- (1) 会員登録者数が 590 人と全国 3 位の登録者数になりました。会員皆様の勧誘のおかげです。
- (2) 第 40 回記念全日本マスタース陸上競技選手権大会群馬大会が決まりました。大谷副会長が準備委員長に、岡田理事長、鈴木事務局長、中村総務委員長がそれぞれ準備副委員長に就任しました。その為、全日本マスタース新潟大会を視察研修し、報告書を作成し、準備計画を立てています。

(3) 第 37 回全日本マスタース陸上競技選手権大会新潟大会で藤岡クラブの安井毅夫氏が 80m ハードルと 300m ハードルで日本記録を出し、西田賞を受賞しました。

(4) 春季大会で、桐生クラブの吉田昌司氏が 800m で日本記録を出しました。県外でも日本記録が出ていますが、県内だけ載せました。

(5) 沼田クラブ阿部恵一氏と前橋クラブ鹿子島マサ江氏が連続 20 年登録者として全日本マスタース陸上競技連合から表彰されました。

(6) クラブ対抗で桐生マスタースクラブが優勝しました。

(7) 審判、補助員として群馬陸協、群馬大学、高崎経済大学陸上部、高等学校の生徒から多数お手伝いをいただきました。大変助かりました。

(8) 選手権では例年より多い数の 97 人の県外者から大会申し込みがありました。

(9) 選手権で優勝者のメダルをやめ、参加賞に変わりました。選手からは好評でした。

(10) 岡田理事長、高橋事務局長に替わりました。大谷前理事長と鈴木事務局長のご指導ご協力により、よたよたでしたが役を果たせました。

最後に役員と会員、群馬陸協、群馬大学、高経大の学生、高校生の協力のおかげで 1 年間の予定された行事が無事終了できました。ありがとうございました。本年もよろしくお祈りいたします。

反省点を活かし、

さらに充実した大会運営を!

事務局長 高橋 裕

昨年は事務局長 1 年目ということで、会員の皆様には大変お世話になりました。主催 4 大会も多くの方の皆様の参加をいただき、無事に終了することができました。その陰には多くの審判員、補助員の方々のご協力があったことも忘れることができません。

私ごとで恐縮ですが、昨年は節目の年となりました。3 月に定年退職し、4 月より新たな仕事に就きました。勤務はフルタイムですが、アフター 5 や週末は時間を自由に使うことができるようになりました。良いタイミングで事務局長の依頼をいただいたと思っております。1 年間を通して各種の会議に出席させていただきました。多くの先輩諸氏から示唆に富んだご意見をいただき、大変勉強になる 1 年でした。また、念願でありました全日本大会にも初めて参加することができました。立派な会場で競技できる喜びと共に、全国のレベルを肌で感じることもできました。開会式や競技の運営も視察することができ、大変有意義な 4 日間を過ごすことができました。このようにマスタース陸

上にどっぷりとつかった1年となりました。生意気なようですが、大会までの流れや全体像が少し見えてきた気がします。昨年の反省点を活かして、さらに充実した大会準備・運営ができるよう尽力していくつもりです。

ようやく春の足音が近づいてまいりました。大会の幕開けも迫っています。

今年も会員の皆様の元気な姿にお会いできることを楽しみにしています

全国大会に向けて、しっかり準備

総務委員長 中村 哲也

日頃より総務委員会に対しましてご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2016年の総務委員会の活動といたしましては、各大会に向けた諸準備、理事会等会議の開催、ホームページの更新などを中心に行ってまいりました。2017年も引き続き粗相のないよう気を引き締めてまいりたいと思います。

さて、2016年を振り返りますと、リオデジャネイロ・オリンピックでの陸上競技、特に4×100mRの銀メダルという快挙により、陸上競技が大変注目された一年でありました。日本の短距離のレベルが確実に上がっていると感じた結果であったかと思えます。

マスターズ陸上におきましては、新潟県で全日本マスターズ陸上競技選手権大会が開催されました。3年後の2019年に群馬県で全日本大会が開催されることを受け、役員の方々に視察に行ってもらいました。2000名以上の方が参加される大会を成功させるためには、大変多くの方々のご協力が必要になると実感しました。

総務委員会としましては、この2年後の全日本大会の開催に向け、赤石総務担当副会長のご指導のもと、しっかりと準備をして参りたいと考えております。

2017年が会員の皆様方にとって素晴らしい一年になりますよう、心よりご祈念申し上げます。



リレー種目の競技規則の確認を

競技委員長 久保田 義雄

マスターズ陸上を愛する会員の皆さまにおかれましては、健全な心身の向上をめざして日々精進され、陸上競技を大いに楽しんでおられることは喜ばしい限りです。

さて、マスターズ陸上大会では、毎回のように競技規則に関する問題が生じていて、特に、クラブ対抗のリレー種目に多く見られます。2016年10月大会のリレーでは、「プログラムに記載されているクラス別リレーの年齢区分を〔例M55→M60〕に変更(選手1名変更したことでプロの区分がずれた)」したり、あるいは、「チームの選手1名が欠場になって、そのチームの残り3名を別のチームに移して出走」させたり、というような事が実際に発生した。

競技規則から判断すれば、前段の変更は、ルールの基本を全く無視した変更ではないだろうか。又後段のチームメンバーの融通移動はたとえ同じクラブのチ

ームでも正規の陸上大会では許されないことである。このルールについてはハンドブックの解説文を2016年3月5日『理事総会で資料配布して説明済みである。』

改めて、マスターズ陸上大会のリレー競技について、研修会等で各クラブ代表者が揃った席で、群馬陸協の上訴審判員の専門家に説明していただいた方が良いと考えます。

2016年度の審判員状況

審判委員長 遠山 博

日頃より、審判委員会に対しましてご支援、ご協力を賜わり感謝申し上げます。平成28年度もこれまでと同様、副会長の阿部さんのもとで、仕事をすすめて来ました。年間4大会に於いて大会役員、競技役員への委嘱や、二大学(群馬大学、高崎経済大学)への委嘱要請を致しました。また、高校生(補助員)についても、3~4校(50~60名)の確保をお願いするなど、各所に通知を行ってきた次第です。その結果、4大会が無事に終了することができましたことにつきまして、競技役員をはじめ、各大学、高校の先生方には心から感謝いたします。4大会の審判員の出席状況は、下記の通りです。

平成28年度群馬マスターズ陸上大会及び駅伝大会の

審判員出席状況

大会名	委嘱数	出席数	出席率	二大学出数	全出席率
① 5月 春季大会	188名	113名	60.1%	31名	76.6%
② 6月 駅伝大会	64名	46名	71.9%	0名	71.9%
③ 9月 選手権大会	154名	81名	52.6%	38名	77.3%
④ 10月 クラブ対抗	144名	86名	59.7%	21名	74.3%
28年度出席率平均			61.2%		75.0%
27年度出席率平均			60.6%		67.4%

上記のように4大会の審判出席率は61.2%であり、前年度と比べると、0.6%と多少増加したものの、低迷している様子がわかります(二大学を除く)。今年度は、更に多くの審判員の確保が課題となりますが、各クラブで協力していただける方をお願いをし、よりスムーズな大会運営にしたいと考えておりますので、宜しくお願いいたします。



マスターズ駅伝の

さらなる充実を目指して

ロード委員長 木暮 幸一

2016年ロード委員会の活動としましては、6月12日(日)に群馬マスターズ駅伝大会を開催致しました。天候に恵まれ、参加チームもクラブ対抗の部9チーム、交流の部36チームと沢山参加していただき、熱戦が繰り広げられました。クラブ対抗の部におきましては、AC王山が優勝、交流の部1部でJAC-C、2部で荒砥走友会はやて、3部で藤岡市ゆっくり走ろう会A、4部で荒砥走友会はやぶさ、5部で富岡走ろう会がそれぞれ優勝を果たしました。

昨年同様、ネオシステム株式会社様のご協力により、チップによる計測で迅速に結果を出すことができました。前日、当日コース準備にはTEAM・Kの方々、

当日審判員の方々のご協力も得まして、無事成功することが出来、感謝いたしております。いくつかの問題点もありましたので、次回の大会には改善していきたいと思っております。今回、交流の部4部に新しく合計280歳以上を設けました。幅広い年齢層の参加者を募りたいと考えていますので、今年は若い年齢層のカテゴリーを増やせたらと思っております。

東日本マスターズ駅伝大会、全日本マスターズ駅伝大会の参加も大切な活動となっておりますが、昨年3月に行われました全日本マスターズ駅伝大会には、選手団を結成することが出来ず、無念の欠場となってしまいました。12月24日に開催された、第2回東日本マスターズ駅伝競走大会には昨年同様、男女1チームずつ参加しました。成績は下記の通りでした。

第2回 東日本マスターズ駅伝競走大会成績					
平成28年(2016年)12月24日(土)					
東京都立川市国営昭和記念公園マスターズコース					
男子の部、女子の部とも各5区間で、それぞれ距離は5.13kmづつで、年代編成は男女同じ					
男子の部					
1位 東京A 1.25.49	2位 群馬 1.27.12	3位 秋田 1.28.19	4位 埼玉A 1.28.51	5位 東京B 1.29.40	6位 岩手 1.30.03
群馬チーム 男子 60歳以上 1.27.12 1区 吉岡 明	50歳以上 2区 木暮 幸一	40歳以上 3区 根岸 泰雄	30歳以上 4区 中村 文彦	30歳未満 5区 柄澤 拓也	18.37(3)
18.37(3)	18.22(5)	17.19(4)	16.26(3)	16.28(5)	
女子の部					
1位 東京 1.42.44	2位 埼玉 1.46.58	3位 岩手 1.47.11	4位 秋田 1.48.17	5位 千葉 1.51.45	6位 群馬 1.52.34
群馬チーム 女子 1.52.34 1区 清水 由貴子	2区 大塚 理恵子	3区 龍崎 直子	4区 青木 雅子	5区 福田 香	25.25(7)
25.25(7)	22.49(7)	22.46(5)	20.47(3)	21.07(6)	
(区間順位)					

男子 2位タイム1時間27分12秒

女子 6位タイム1時間52分34秒

皆様のご支援、ご協力に感謝申し上げます。



群馬マスターズ駅伝チーム

第2回 東日本マスターズ駅伝大会

※ 報 告 ※

ロード委員長 木暮 幸一(監督)

第2回東日本マスターズ駅伝大会は平成28年12月24日(土)、国営昭和記念公園で開催されました。大会当日は晴天に恵まれとても良い駅伝日よりとなりました。男女とも1周5.13kmのコースで1区60歳以上、2区50歳以上、3区40歳以上、4区30歳以上、5区30歳未満のメンバー編成で行われました。

男子は1区、先頭から3秒差の3位で好スタートをきり、2区もそのまま3位をキープ、3区で2位に浮上し、4区5区でも順位をキープし、準優勝すること

が出来ました。女子は、1区、7番手のスタートから2区で一つ順位を上げ6位となり、3区、4区、5区では順位キープにとどまり6位入賞でした。

県代表として戦い、良い刺激と経験となり、チームとしても親睦を深めることが出来て良かったです。

選手の皆様、大変お疲れ様でした。

いろいろなしわ寄せが届く

記録委員長 牛房 進

任務からすれば、当記録委員会が反省という内容の報告を載せるのは本筋ではないのですが、10月クラブ対抗大会のリレー競技で、ルールに抵触する状況が発生して、残念ながら後味の悪いままで2016年の大会が幕を閉じてしまいました。

当委員会では、記録が正確で迅速な処理で見やすい結果表になるように神経を研ぎ澄まして補助員を含めて10余名で作業に取り組んでいます。

その上、表彰係の筆耕担当者が年々減少して、賞状の作成が遅れることが多くなってきたので、当委員会の田中島さんがプログラムを開発して、「パソコン入力・プリンター印刷」方式によって賞状作成が実現しました。このように書けば、いとも簡単ですが、全面的に賞状が作られている訳でなくリレー種目は現在も手書きのままです。クラブ対抗では殆どのチームが3位に入るので25~30枚最終盤に殺到して表彰係を悩ませるのである。

まさに、「常在戦場」、記録係の立場として、ちょっとしたことでも右往左往、風速記入漏れだけでも大騒ぎになるし、フィールドの記録結果が不鮮明な数字の場合には「0」か「8」か、あるいは「7」か「9」なのか」紛らわしいことがあり、それだけでも記録処理に大ブレーキがかかります。関連部署に迷惑がかかるし、表彰係から「賞状はまだかい」と催促を受ける事が多くなります。

例えば改善によって進歩した点では、プログラムの出来映えが『関数入力』によって入力ミスが画期的に減少して、上毛新聞社からのクレームや問い合わせが激減し、電話料金が激安となった。クラブ対抗のプログラムのことと言えば、県外選手については、オープン参加(OP)なのに、順位の欄に、数字が記入されていて、間違っても得点記入することもあったので、プログラム作成時に順位の欄に(OP)を入れておけば解決できる点である。

各競技現場で、記録結果表を記入作成する方に大切なお願いですが、数字はわかりやすく、丁寧に書いて下さい。そして、雨の日は、用紙が濡れると見づらくなるので、注意深く扱って下さるように、よろしくご協力をお願いします。

また、各クラブや登録原本を扱っている責任者の方は、特に新規会員の各項目について注意深く、確認をお願いします。

最後になりますが、記録係の仕事だけでも大変なところへ、「競歩種目」審判のまとめ役(主任)、を求められますが、受けられませんので、よろしくをお願いします。

平成 28 年活動報告及び 29 年活動予定

女子委員長 細谷 好子

女子委員会は、活動実施から 12 年目になります。ここ 2 年間は、春と冬のどちらかに 1 回、イベントの多い時期を避け、練習会を開催しています。

女子会員練習会及び親睦会の開催：

平成 28 年 11 月 26 日(土)13 時～

渋川市立古巻小学校体育館にて 19 名参加

渋川 AC の高橋英樹さん指導のもと、ウォーミングアップ・ストレッチ 30 分、その後 2 グループに分かれ、ラダートレーニング・メディシンボールトレーニング(重さ 2kg と 3kg のボールを使用して補強・筋トレ)を実施し、頭と身体を使って汗を流しました。後半は、ソフトバレーボールで楽しく賑やかに時間を過ごしました。初参加の人が 2 人いましたが、「初めてのトレーニングが多く、他の競技にも興味がわいてきた。よい機会だった。」と、感想をいただきました。練習終了後、渋川温泉スカイテルメで親睦会を実施しました。(13 名)

今年は、尚一層充実した企画を増やし、普段子育てや仕事に多忙な女性の皆さんにも時間をつくって頂いて、一人でも多くの参加者が増えるよう、輪を広げていきたいと考えています。今回は、6 月を予定しております。会員の皆様方、是非ふるってご参加ください。

又ご意見・ご要望がありましたら、お聞かせ下さい。



女子委員会の練習会風景

平成 28～29 年 役員 名 簿			
群馬マスターズ陸連 (平成 28 年 1 月 1 日～平成 29 年 12 月 31 日)			
会長	中沢 丈一		
顧問	林 清則		
参加者	高橋 嘉三	新井 圭三	鹿子島 進
		千吉良 良一	安田 三郎
			始澤 重信
副会長	赤石 明男	萩原 将雄	齋藤 功
	[総務担当]	[財務担当]	[競技担当]
	吉野 宏	増淵 清一	田中 昭光
	[記録担当]	[ロード担当]	[広報担当]
	大谷 勝哉	[全日本大会担当]	岩井 均 [渉外担当]
理事長	岡田 節男		
事務局長	高橋 裕	鈴木 長善	(全日本大会担当)
常務理事	中村 哲也	久保田 義雄	遠山 博
	[総務委員長]	[競技委員長]	[審判委員長]
	木暮 幸一	本多 和彦	細谷 好子
	[ロード委員長]	[広報委員長]	[女子委員長]
監事	関口 祐治	鹿子島 マサ江	
理事	千吉良 良一	関根 末雄	荒井 信之
	(前橋)	(荒砥 AC)	(AC 大山)
	木暮 幸一	萩野 耕三	本多 和彦
	(TEAM・K)	(伊勢崎)	(高崎)
	高橋 裕	布施 武博	安野 満夫
	(西毛)	(藤岡)	(桐生)
	久保田 義雄	中村 芳且	須田 甚一郎
	(大泉)	(前橋中央)	(どんがめ)
	栗田 伊一	加藤 利一	小川 智之
	(館林)	(渋川)	(北群馬)
	入沢 正次郎	金子 健司	白水 正昭
	(ふきのとう)	(吾妻)	(上州)
			牛房 進
			(勢多)
			細谷 好子
			(富岡)
			金子 陽司
			(太田)
			梅津 定一
			(明和)
			阿部 恵一
			(沼田)
			田中島 務
			(チーム峰)
			・常務理事は、専門委員会の委員長が任務に当たる
			・理事は、各クラブ責任者(理事会に出席できる人)が務める

とびつく

ちからを合わせたクラブ対抗

桐生クラブ 大川 貴子

H27 年は勝てると思っていたクラブ対抗に僅差で負けて、とても悔しい思いをしました。この一年は会員をさらに増やし、大会申込の際には『勝ち』を意識しながら種目を選び、試合中に自分たちで点数計算もしました。とにかく、納得の上で表彰台に上がりたかったのです。それぞれの思いを胸に抱き、当日は欠席者もなく戦いに挑みました。皆で力を合わせ、皆で勝つことを味わえるクラブ対抗は、本当に楽しい大会なのです！

桐生クラブは三月に顔合わせを行い、目標を立ててシーズンへの気持ちを新たにします。その後は、月に一度の合同練習会で士気を高め合い、老若男女が仲良く楽しい時間を過ごします。

毎年、クラブ対抗の後には懇親会も兼ねてお酒の席を設けます。その席が、祝賀会になるか反省会になるかはその年次第ですが、今回は特に美味しいお酒に酔いしれました。また、毎年大谷会長より上位得点者に桐生クラブオリジナル商品がプレゼントされます。会長ご夫婦のお気持ちが嬉しくて、子供の様にはしゃぐ私達でした。

H28 年のクラブ対抗は、十月に岩手国体でスポーツグランプリを受賞された会長ご夫婦に花を添えられた嬉しい優勝でした。そして、私達が一生青春を謳歌出来るのは、大会関係者皆様のお陰です。いつもありがとうございます。この場を借りて御礼申し上げます。

全日本マスターズ参戦報告

藤岡クラブ(M75) 安井 毅央

第 37 回全日本マスターズ陸上競技選手権大会

開催日：2016. 9/17～19

新潟県デンカビッグスワンスタジアム

- ・ 80mH 優勝(13"68)日本新
- ・ 300mH 優勝(53"81)日本新
- ・ 60m 2 位(8"95)



このような記録達成によって、閉会式では主催の日本マスターズ陸上競技連合より【賞状、盾、日本新記録バッジ】を授与、また朝日新聞社から『優秀選手賞』(賞状)と、『男子最優秀選手賞(西田修平賞)』【レプリカ、盾】を受理する事が出来て、感激あふれ忘れられない表彰式となった。大会運営にご尽力された皆様に御礼を申し上げます。

世界マスターズ陸上参戦報告

藤岡クラブ(M75) 安井 毅央

開催日：2016. 10/26～11/6

開催地：オーストラリア・パース

次に示す最高の結果報告を出来る事を誇りに思う。

- ④ 80mH(13"67) -0.3 優勝
- ② 300mH(54"54) 優勝
- ① 走幅跳(4m32) -0.1 優勝

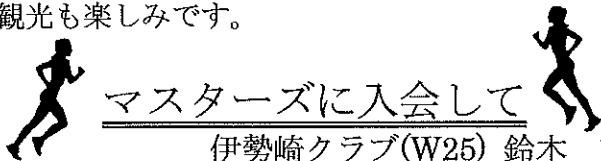
- ③ 三段跳(9m33) 1.6 優勝 [県新記録]
 ⑤4×400mR(4'57"42) 3位 [M70 第4走者]
 ⑥4×100mR(記録なし)失格

※①～⑥は、競技順である。

日本からは、男子 82+女子 19=101 名で、7 番目の参加者だった。陽春で快晴が続き快適だった。

H25年10月、ブラジル大会で世界の頂点を達成、夢を実現してから次なる目標には時間を要したが、近づいた75歳に向けて80mH、300mHの日本新への挑戦だった。更にはその先に世界新記録へと夢は大きく叶えたいとトレーニングに励んでいる。

2017年3月17～25日韓国大邱(テグ)開催の世界室内マスターズ陸上競技会をめざして、新たな仲間やライバルとの顔合わせにも胸が弾みます。また、他国の観光も楽しみです。



マスターズに入会して

伊勢崎クラブ(W25) 鈴木 詩織

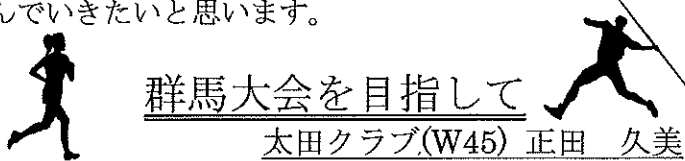
私は陸上競技を中学から続けて、昨年で13年目となり、日々精進している社会人の先輩方に刺激を受けて、25歳になった昨年、マスターズへの登録を決めました。

9月に新潟でおこなわれた全日本マスターズ選手権では、W25クラスの100mと200mに出場させていただきました。力不足で思うように走れませんでしたが入賞することができ、同じ伊勢崎マスターズの方々にも喜んでもらったことが何より嬉しく思いました。

初めてマスターズの試合に臨みましたが、30代40代の強さに圧倒されました。見ていて、とても輝かしく、格好良く、私も生涯続けてあんな風に走り続けたいと思いました。

私は今も今までも強い選手ではありませんが、走ることが好きで続けています。続けることで、新しい出会いや繋がりがあり、今回はビッグスワンスタジアムという大きな場所で走ることができました。

素敵な舞台で走るのにふさわしい、30代40代にも負けない走りができるよう、これからも練習にとりくんでいきたいと思います。



群馬大会を目指して

太田クラブ(W45) 正田 久美

十数年ぶりの全国大会でした。日頃、しっかり練習をしているわけではありませんが、今大会は会場が新潟県という事を聞き、慌てて宿泊場所に予約を入れました。が、しかし私の考えは甘かった。年々、歳を重ねて体力も十数年前とは違って、体が上手く動いてくれない。大会当日まで、色々な大会に出場をしてみるものの、思うような記録が出なくて、途中、棄権してしまおうかとも考えた日もありましたが、あっという間に当日を迎えました。大した練習をして来たわけでもなし、周りの方々には不愉快な印象を与えてしまうでしょうが、全く切羽詰まった感覚もなかった。私自身、そんな私に腹を立てていたが、どうにもならなかった事が事実でした。当日は両日ともに私の苦手な雨空でした。砲丸投げの一投目を投げ終わると、気持が

軽くなり、色々な世代の方ともお話ができた。試合もだが、皆さんとも仲良くなれて楽しかった。順位はさることながら、大した記録は出ませんでしたでしたが、今回の全国大会は仲間という大切なものを得てきました。

本来ですと、今年も参加したい所ではありますが、多分無理だとは思いますが、二年後にやってくる「群馬大会」には万全を期して臨みたいと思います。今までの練習の根本的なものを考え直し、練習に励んでいこうかと思っております。まずは脚を鍛えようと。走れるようになれば、必然的にどの種目にも共通するものだと考えられます。

今期はW50にクラスが上がります。未知の世界へ突入です。出来る限り体を動かし、末永く《マスターズ陸上》を続けていこうと思っておりますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。



全国大会で一番高い所に

高崎クラブ(M35) 浦野 洋平

第37回全日本マスターズ陸上IN新潟に参加してきました。前年の岐阜での全国大会では惨敗し、来年こそ一番高いところに立つと心に決め、この日のために練習を重ねてきました。

走幅跳び当日。起きて窓を見ると外は雨。下がるテンションを無理矢理奮い立たせ、競技場へと向かいました。雨の日は良い結果が出たことがなく、不安な気持ちを持って打ち消し試技に臨みました。

予想通り3本目までは普段以下の記録でした。いつもは、ここで落胆してしまい終わっていましたが、自分が心に決めたこと、つらい練習を乗り越えてきたこと、サポートしてくれた人たちのことを思い返し、自然な形で試技に望むことができました。結果は優勝。陸上を再開してからのパーソナルベストのおまけ付きでした。このような成績を残せたことは、今後の競技人生において自信になり、最高の思い出となりました。

仲間に誘われ三人で陸上を再開し早3年。試合を重ねるごとにたくさんの人と出会うことができ、時には切磋琢磨し、時にはバカを言い合える仲間がたくさんできました。記録だけではなく、出会いや諸先輩方の真摯な姿勢を学べるのがマスターズの良さだと感じました。

高校時代に学んだ「自律」の精神を念頭に置き、陸上競技を通し様々な方々と繋がっていきたくと思います。

全国大会に参加して

富岡クラブ(M45) 大河原 進一

マスターズ陸上を始めて早10年が経ち、今では全日本大会も心待ちにしながらも、当たり前のように参加しています。1年のうち、この全日本大会に照準をおき、日々トレーニングと地方への大会は積極的に出場し、気付けば、年間で20試合以上の大会に参加していました。昨年の全日本大会においては新潟の”デンカビッグスワンスタジアム”が会場。立派な競技場でもあり、期待を胸に臨みました。が、大会2日目の走り高跳びは朝から雨。折角の大舞台が”なぜ”とショックは隠せなかった。

それでも気持ちを切替えるが、最初の試技でマットに落ちるやいなや、全身びしょり。”アーツ”とテンションが下がる。でも他の選手も条件は同じ、と気持ちをアップさせるも、結局 SB (シーズンベスト) もでず、悔いの残る記録となった。そして課題も必ずや残るもので、多くの問題点がある中、1つでもクリアできた時は、やはり嬉しく前向きに向き合える時です。

全日本大会は全国から参加する方々と顔を合わせられる絶好の機会であり、交流の場でもある。そんな中、1年振りに再会する方々も多く、笑顔で話せる瞬間も堪らなくいい時間に思える。

第40回記念大会は群馬開催でもあり、期待と興奮が交じり合う。全日本大会及び地方大会により多く参加することで、群馬をアピールし、多くの方々に参加して頂けるよう働きかけ、群馬大会が盛大に盛り上がるよう、微力ながら協力していきたいと思ひます。

マスターズ陸上に寄せる思い

AC王山(M60) 古野 雅由

定年と還暦を記念して、9月17日から19日に開催された、第37回全日本マスターズ陸上新潟大会のM60クラスの100mと200mにエントリーしました。

大会当日の天候は曇り、200mスタート時刻は時々雨の降る悪条件の中、追い討ちを掛けるようにスタート直前に写真判定のトラブルが発生、召集から競技迄の待ち時間が長い全日本マスターズ陸上競技の中で、更なる調整の難しさに直面しました。

6位入賞を目標に参加した200mの結果は、ここ数年の体重増加が原因と思われる足底腱膜炎に悩まされ、これによる練習不足が結果に現れ7位と(5位とは0.06秒、6位とは0.03秒差)。レース後、気を取り直して翌日の100mに再起を掛けようと思ったが、腫が痛い。足底腱膜炎が悪化してしまい、棄権を決断、賞状なしで帰路につき、記念の大会は終了しました。

私が陸上競技に親しみ始めたのは、娘の小学生陸上競技大会でマスターズ大会が並行して開催されていて、自らの身体能力を計りたいと思った事がきっかけでした。その後、16年間にも及びマスターズ陸上競技に参加させていただいています。そのマスターズ陸上競技を続けるモチベーションを与えてくれたのは、県から補助をいただき選手団を結成し参加する“スポレク祭”でした。3位以内の入賞で、同年代クラスでの出場が出来なくなる制限はありましたが、各地に出かけられる楽しみがあったからです。そのスポレクも2011年、第24回栃木大会を最後になくなり、競技志向の高いシニアの大会“日本スポーツマスターズ”も第1回大会が2001年に宮崎市で開催されましたが、3回の和歌山大会で陸上競技は終了しています。

全日本マスターズ陸上のような競技志向の高い個人参加型の大会は当然ですが、親睦やコミュニケーションを重視した“全国スポーツ・レクリエーション祭”のような、国が支援する大会は必要と考えます。陸上競技でも復活する事を期待してマスターズ通信への投稿とします。

平成28～29年 専門委員会					
群馬マスターズ陸連 (平成28年1月1日～平成29年12月31日)					
委員会	担当副会長	委員長	副委員長	委員名	
総務	赤石 明男	中村 哲也			
財務	萩原 将雄				
競技	齋藤 功	久保田 義雄	伊藤 皓夫	梅津 定一 正田 久美	小林 稔 吉田 祐一郎
審判	阿部 恵一	遠山 博	奥田 秀一		
記録	吉野 宏	牛房 進	大澤 茂	田中島 務 林 由子	岡部 京子 松村 ちよ子
ロード	増淵 清一	木暮 幸一	白水 正昭	桜井 正宏	諸田 重雄
広報	田中 昭光	本多 和彦	小林 履吉	加藤 利一	
女子	小堀 美佐枝	細谷 好子	青木 早苗	金子 静枝 永田 典子	富塚 かず子 中村 比呂美

*最後に・・・

専門委員会 2016 活動報告

2019 全国大会に向けて

広報委員長 本多 和彦

＝事業報告＝

「群馬マスターズ通信」発行

□定例発行 2016年(平成28年)2月29日

A3版表裏4ページ予定通り、理事会にて、理事の皆さんにお渡しすることができました

□臨時発行(特筆する出来事があった時に発行)

9月4日発行「全日本大会決定号」A4版表裏2ページ

12月10日発行「会員700名キャンペーン号」A4版表裏2ページ

毎回のように原稿をお寄せくださっている方に感謝いたします。また、突然の原稿依頼にもかかわらず、快く引き受けて原稿をお寄せくださった皆さんにも感謝いたします。今後とも原稿の件、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

昨年より、総務中村さんのご尽力により、群馬マスターズのホームページで、過去の「群馬マスターズ通信」が見られるようにしていただきました。

さて、2019年に、「第40回記念全日本マスターズ陸上競技選手権大会」を群馬で開催することが決定いたしました。全国大会と聞くと、尻ごみをしてしまう方が多いと思いますが、せっかくの機会なので参加することをお勧めしたいと思います。同じ競技の仲間ですので、すぐに友達になれます。地元開催なので、気軽に参加してみたいはいかがでしょうか。2000人を超える方が参加されると予想される全国大会に向けて、様々の角度から発信していくことが大切だと感じています。そのためのひとつの手段として「群馬マスターズ通信」があると思います。総務の中村さんと連携し、ホームページも活用しながら、情報発信に努めていきます。みなさんからの情報提供もお待ちしています。よろしくお願いいたします。

2019年 第40回記念 群馬県大会 開催決定!

全日本マスターズ陸上競技選手権大会

☆みなさんふるって参加しましょう☆

群馬マスターズ陸上競技連盟 広報委員会